

<令和6年1月定例記者会見>

1 開催日時

令和6年1月11日（木）午前10時半～午前11時

2 場所

滝沢市役所 庁議室

3 来庁した報道機関

岩手ケーブルテレビジョン、岩手朝日テレビ、岩手日報社、読売新聞社、盛岡タイムス社

4 発表事項

冒頭、武田市長より令和6年能登半島地震及び第2次総合計画についてコメントがあった。

(1) 「第17回滝沢市郷土芸能まつり」の開催について（文化振興課）

1月28日（日）に「第17回滝沢市郷土芸能まつり」をビッググループ滝沢で開催します。このまつりでは、滝沢市の郷土芸能団体が集まり、それぞれが伝承する踊りをみなさまの前で披露いたします。

今年のまつりのテーマは、駒踊りにスポットを当てた「鈴と笛の音色に駒が舞う」となっています。

招待団体は軽米町の「南部(なんぶ)駒踊り(こまおどり)」、また、滝沢市出身の民謡歌手「藤岡(ふじおか)祐衣(ゆい)」さんがゲスト出演します。そのほかにもさんさ踊りや神楽など郷土芸能が盛りだくさんです。皆様のご来場をお待ちしています。

(2) 滝沢市市制施行10周年記念式典及び記念祝賀会の開催について（企画政策課）

平成26年1月1日に滝沢村から滝沢市へ移行し、今年で10年の節目を迎えます。市制施行10周年を記念し、記念式典及び記念祝賀会を開催します。

記念式典は、市内中学生の吹奏楽の演奏で幕を開け、10年の歩みを映像で振り返ります。アトラクションでは市伝統芸能の演目（予定）や滝沢市オリジナル婚姻届贈呈式などが行われます。

また、記念祝賀会では、ゲストに岩手県立大学4年生で第41回2023津軽三味線世界大会にて唄付(うたづけ)伴奏A級部門で優勝の佐藤(さとう)竜雅(りゅうが)さんをお招きし、三味線の演奏を披露していただく予定です。

記念式典及び記念祝賀会は、すでに案内文書を送付している招待者のみのご参加となりますが、市制施行10周年を記念する事業は、2月25日開催予定の記念講演会など、他にも開催する予定です。開催概要が決まり次第、随時お知らせします。

(3) 市制施行10周年記念オリジナル婚姻届の完成について(たきざわ魅力発信推進室)

市制施行10周年を記念して、昨年からはMCL盛岡外語観光&ブライダル専門学校の皆さんが、滝沢市オリジナル婚姻届を市の協力のもと作成しています。

デザインには、市のシンボルをモチーフとしたものや、明るい二人の未来をイメージした装飾が施されています。また、婚姻届を飾ることができるアルバムも考案中で、学生たちは結婚する皆さんを祝福するためにさまざまな工夫を凝らしています。

完成した婚姻届は2月4日（日）の市制施行10周年記念式典の中で市に贈呈され、以降、市公認のものとして使用する予定です。

一般配布の開始はバレンタインデーの2月14日（水）からを予定しており、当日にはビッグルーフ滝沢を会場に記念セレモニーを開催する予定です。セレモニーでは、事前に申し込みいただいた10組限定で、先ほどお伝えした、学生が考案したアルバムがプレゼントされます。

セレモニーの詳細などは決定次第改めてお知らせします。

（4）たきざわ×わかもの交流事業の開催について（若者活躍推進室）

滝沢市では、2月17日（土）に東京都の上野で首都圏在住の滝沢市ゆかりの若手の方々との「たきざわ×わかもの TALK CAFÉ in 東京」を開催します。

この交流会は、「若者が多いまちである」という強みを生かし、本市が取り組んでいる学生や若者との連携・交流による地域内の人材定着やI J Uターン人材の確保に向けた初めてのイベントです。

対象者は、滝沢市出身者や盛岡大学及び岩手県立大学卒業生、滝沢市関連企業の方等滝沢市にゆかりのある人としており、若手人材の交流会を通じ、市とのネットワーク作りや将来の移住定住へと繋げることを目的としています。

当日は、市の取り組みを説明した後、滝沢市ゆかりの首都圏在住者と地元の方をパネリストに迎え「若者のちからと滝沢市のこれから」をテーマにトークセッションを行います。

現在、参加案内を広く周知するため滝沢市の特産品セットが当たるX（エックス）の「フォロー・リポストキャンペーン」を実施しています。

イベントの周知にご協力をお願いします。

5 市発表案件について記者からの当日質問

記者：婚姻届についてですが、滝沢市としてオリジナルの婚姻届というのは初めてですか。

企画政策課長：初めてです。

記者：なぜMCLさんと一緒に作るようになったか、経緯を教えてください。

企画政策課長：卒業制作の一環で、学生さんたちが授業の中で自治体等とコラボする企画を考えるとという中でスタートしたものです。詳しい経緯については、本日学生さんたちが来ているので、お話をいただければと思います。

MCL学生：きっかけとして、たくさんの市がある中で、滝沢市は市制施行10周年を迎えるという事で、10周年を盛り上げたい、何かお祝いできることはないかという思いでコラボさせていただくことになりました。

記者：婚姻届について、一般配布開始後はどこで配布しますか。枚数に限りはありますか。

担当課職員：配布は2月14日からとしており、通常の婚姻届と同様に、市民課と東部出張所での配布を予定しています。HPからのダウンロードについても、市民課担当と検討中です。配布枚数には限りはなく、通常の婚姻届同様に使いたい方に対して配布します。

記者：婚姻届についてです。配布について期限などはありますか。

担当課職員：期限は設けておりません。市制施行10周年を記念して作ったものになりますが、今年中のみの配付といった期限は設けていないので、以降も使えるものになります。

記者：市制施行10周年関連で、市長としてどんな式典にしていきたいか、意気込みなどを教えてください。

市長：10年を振り返り、市の未来を市民の皆さんと一緒に連携しながら作っていくことを意識しながら進めていきたいと思っています。多くの皆さんが外に出ることや人に会うことを躊躇してきましたが、昨年コロナが5類に移行し、人の流れが戻ってきた中で、しっかりとスタートを切れるようにしたいと思っています。そのために、これからの滝沢市を市民の皆さんと盛り上げていくんだという思いで、今後の市政に市民の皆さんがもっと興味を持ってもらい、いろんな意見をもらいながら、活発な市政運営をしていきたいと思っています。

記者：これから先の10年、さらにはその先の未来という風に見据えていくと思いますが、長期的な展望についてはどうお考えですか。

市長：滝沢市は県北の入り口だと思っています。特に国道4号線や県道282号線など、県北振興の一つの起爆剤となる位置にあると思っています。滝沢市だけが盛り上がるのではなく雫石、八幡平、盛岡、そしてさらに北につながる部分についても意識しながら、市政を進めていきたいと思っています。滝沢市だけが良くなりたいという思いではなく、岩手県の中で我々が果たす役割があると思っています。特に2つの大学があることで、岩手で生まれた、もしくは他県から来た若者と一緒に、滝沢を中心に発展していけたらなと思っています。

記者：式典と祝賀会の参加は招待者だけのことですが、どんな方々を招待しているのですか。

企画政策課長：地域の自治会長、市議会議員、県内13市の首長、盛岡広域7市町の首長・議長、その他市内の関係団体、市内企業の関係者の皆さんの出席をいただく予定となっています。

記者：およそ何名ほどになりますか。

企画政策課長：11日時点で式典が216名の参加、祝賀会が181名の参加となっております。

記者：記念講演会は、どなたがお話しするのですか。

企画政策課長：スピードスケートのオリンピックである高木菜那さんをお招きして、講演会を実施する予定です。

記者：こちらは一般参加も可能ですか。

企画政策課長：その通りです。

6 その他記者からの当日質問

記者：市長の冒頭のあいさつでお話がありました能登半島地震についてですが、基本的には県と県市長会から要請があれば、派遣等を検討していくという理解でよろしいでしょうか。

市長：日々現地にとって必要なものなども変わってきていることから、本日の部長級の会議でも、物品についても出せるものがあればしっかり提供していきたい旨の話をしました。人的支援につきましても、現在4名を派遣する予定にしています。まずは現地の要望に応えられるよう、検討してまいります。

副市長：現時点で正式な要請は来ておりません。要請があるのか、また期間などについても未定ですが、準備を進めておいてほしいといった話ですので、要請があった際には対応できるように、事前準備を進めている状況です。

記者：具体的にいつ頃どこに派遣するといった段階ではまだないということですか。

副市長：その通りです。先ほど市長がお話しした物品については、プッシュ型のものや自治体によってはHPなどに必要な物品が掲出されていますので、市としてどういった対応ができるか検討中です。滝沢市として支援できる形になれば、速やかに対応してまいりたいと考えています。

記者：連携協定や姉妹都市になっている自治体は石川県にはありますか。

市長：ありません。